

7. その他

(1) 資格取得の取組

ア GTECの取組について

(ア) 結果

本年度は第1学年、第2学年全員を対象に12月にGTEC（アセスメント版 Advanced）を実施した。結果は3月中旬に返却予定であるため、現第3学年、現第2学年の昨年12月の受験分の結果についてスコアとCEFR-Jのレベルを示す。

【現第2学年】昨年度分を掲載。（ ）内はCEFR-Jレベルを示す

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
1年12月	178.4(A2.1)	189.1(A2.1)	234.3(A2.2)	244.9(A2.2)	847.2(A2.2)
全国高1平均	152	159	196	196	722 (A2.1)

【現第3学年】昨年度受験した計2回分を掲載。（ ）内はCEFR-Jレベルを示す

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
2年7月	194.7(A2.2)	202.1(A2.2)	234.5(A2.2)	220.7(A2.2)	853.6(A2.2)
2年12月	200.4(A2.2)	201.7(A2.2)	232.9(A2.2)	250.5(A2.2)	887.4(A2.2)
全国高2平均	166	175	201	205	771 (A2.1)

実施したそれぞれの技能測定でCEFRのB1の基準以上に一致する生徒の人数を以下に示す。

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
1年12月	9	53	209	19	22
2年7月	67	102	168	12	37
2年12月	90	111	216	34	75

(イ) 結果の考察と来年度の課題

第1学年では、グローバル英語の時間を利用してディスカッションやスピーチを行うことによって、スピーキング力の養成に力を入れている。コミュニケーション英語と英語表現においても、4技能をバランス良く活用できる活動内容を組み立てている。第2学年でも、4技能のバランスを意識した言語活動を継続して取り入れている。GTECスコアで普段の授業の活動内容を見直し、生徒達が各自の英語力を知り、今後の学習目標を立てる励みになることを期待する。

本事業の目標設定ではCERF-JのB1～B2の生徒の割合が30%になるように定めているが、totalスコアで見ると昨年度の該当者は15%未満である。しかし分野別に見ると、listeningでは21%、writingでは56.8%がB1レベル以上の結果を出している。客観的評価に耐えうるSpeaking力の養成、多様な題材を大量に正確に読むReading力とそれぞれの技能を総合的にバランス良く統合して使用できる力の養成が課題である。更に観点別に見ると、Readingでは、昨年の1年生はまとまった量の英文に対して、文章全体の趣旨やパラグラフごとの要点について英文の理解する力が比較的弱いことがわかる。昨年2年生も同じ傾向が見られたが、大きく力を伸ばし、WPMが120語以上の生徒が21名であった。（全国平均は76語）。Listeningについては、事前予測ができる情報がない中で、会話的な不意の問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理できる力を測る会話応答問題が1年、2年共に弱いことがわかる。実際の会話に近い素早い応答が求められるため、Speaking活動を強化することで対応していきたい。Writingでは意見陳述問題が両学年共に弱い。評価項目の正確さ、語彙、構成、文法の点で1年から2年への伸びが少なく、高得点の生徒が

いないことが課題である。ある程度伝わる英文をそれなりの量で書くことはできるので、文法的正確さ、使いこなせる語彙の増加に加え、多角的な視点から自分の考えを説明し、関連性を持たせて主張につなげる文章を書く力をつける努力を継続し、全体的なレベルアップを図りたい。Speaking では語彙・文法、発音・流暢さにおいて1年から2年への伸びが少ない。評価項目の「内容を十分伝えられている」、「伝えられている」生徒は両学年ともに70%以上であるので、伝わるだけでなく、正確さや流暢さも意識して話す活動を取り入れる必要性を感じた。普段の授業ではペアで話す活動を必ず取り入れており、相手に伝わるように話す姿勢がかなり身につけてきたと感じている。生徒達が成長を実感しながら、自ら課題を見つけ、克服していく力を身につけられるように指導していきたい。

イ 実用英語技能検定について

外部試験の大学入学共通テスト利用は見送られることになったが、今年度も1年、2年生を中心に積極的に受験する生徒が多かった。今年度の第1回、第2回の各級の合格者数は以下の通りである。CEFR-JのB1レベル以上であるとされる2級以上の合格者は59人であるが、2年、3年の中には2級に合格する実力があると思われる生徒の割合は多いと感じている。検定合格を目標の一つとし、英語力向上のため努力を続ける生徒が増えることを期待したい。なお、第3回の検定結果については、次年度報告書に反映させる。

	1年	2年	3年	計
準1級	0	0	4	4
2級	5	40	10	55
準2級	32	24	0	56
計	37	64	14	115